

011 From Editor

013 表紙の時計／エルメスH08

014 Editor's Choice!

ウブロ クラシック・フュージョン オリジナル、IWC ポートフィノ・オートマティック 37、ゼニス デファイ スカイライン、オメガ シーマスター アクアテラ シエード。

世界は時計で回っている。

020 オーデマピゲ ロイヤル オーク オフショア クロノグラフ

30周年を迎えてトリビュートモデルが誕生

オーデマピゲが1993年に発表した「ロイヤル オーク オフショア」は「ビースト」の異名がつくほど異色だった。しかし2000年代に入り次第に人気を得て、「コレクション」として発展した。30周年を記念して映画「エンド・オブ・デイズ」モデルにオマージュを捧げる限定モデルが登場した。

024 ロンジン パイロット マジエティック、ロンジン スピリット フライバック

豊かな歴史を次世代に継ぐために甦ったアーカイブ・ピース

028 シュマン・デ・トゥレル

「普通であること」の良さを再認識させる正統派ウォッチ

030 ルイ・ヴィトン ハイウォッチ・メイキング、タンブル オペラ オートマタ、

タンブルファイアリーハートオートマタ、タンブルムーンフライング トゥールビヨン
ポワソン・ド・ジュネーブ、タンブルムーン カレイドスコープ

自由な発想を具現化する技術力の飛躍的な進化

ラ・ファブリク・デュ・タンルイ・ヴィトンの高度な技術力を物語るユニークなオートマタ・ウォッチが再び登場した。中国の「川劇」の特徴である変面を表現したタンブル オペラ オートマタ、美しくもユニカルなタンブルファイアリーハートオートマタなどを見てみたい。

035 2003年ブランド別新作情報／ウォッチズ&ワンダーズジュネーブ、日本ブランド、その他

自社の伝統を振り返り、現代的な創造を加えた 新作にみる近い将来を見据えた堅実な進化

3月27日から4月2日までジュネーブで開催されたウォッチズ&ワンダーズジュネーブ2023は48ブランドが参加し、約4万3000人が訪れ、期待以上の賑わいで幕を閉じた。ここで新作を発表した28ブランドをはじめ、国産メーカーを含む計36ブランドの新作の概要をご紹介します。

- 088 ルイ・ヴィトン、タンブル オトマティック ダイバー クロノグラフ
機能性とデザインが調和した、迫力あるスポーツ・クロノグラフ
- 089 ベル&ロス、BR 01 サイバースカル ブロンズ
モダン・アートへと進化を遂げたスカル・モデル
- 090 スウォッチ アートコレクション、スウォッチ アート ジャーニー 2023
「アートを気軽に楽しもう」を提唱するスウォッチの最新作
- 092 ブライトリング、プレミエB01 クロノグラフ 42、トップタイム クラシックカーズ コレクション
新しい時代を先駆けた、プレミエがCari.01を搭載して復活
- 095 ショパール アルパイン イーグル 日本限定 SHIKKOKU
禅の美学にオマージュを捧げた日本限定モデルが誕生
- 096 ハミルトン、ジャズマスター パフォーマー
ジャズマスターにスタイリッシュにして正統派の新作が登場
- 098 ウブロスピリット オブビッグ・パン サンブルー
タトウ・アーティストの視点から生まれた構造美
- 099 **腕時計新着情報**
- 101 スイスの時計産業と日本を繋ぐスイス時計協会(FH)第8回
ショパール、国際幸福デー
- 102 「ハピネスの連鎖」を繋ぐために、国際幸福デーを祝して
ショパール、サステナブル ラグジュアリーへの旅
- 103 **すべてのスチール・ウォッチにルーセントスタイルの採用を宣言**
ビバー
- 104 **情熱の対象、それは魂のある時計を生み出すこと**
ジン・デポ
- 105 **プロフェッショナルのための特殊時計の世界を体感する**
- 106-112 インフォメーション / 問い合わせリスト / 次号予告

オーデマピゲ ヨロイヤルオーク オフショア クロノグラフ

30周年を迎えてトリビュートモデルが誕生

ヨロイヤルオーク オフショアが誕生したのは1993年であり、今年には30周年を迎えた。それを記念してオーデマピゲはアーノルド・シュワルツェネッガーとのコラボレーションの第一作にオマージュを捧げた。なぜならそれが人気の火付け役であった。

2022年のヨロイヤルオーク誕生

50周年に続いて、今年にはヨロイヤルオーク オフショアが30周年目を迎えた。この誕生モデルもヨロイヤルオーク同様、あるいはそれ以上にセンセーションを巻き起こした。ステンレス・スチール・ケースは直径42・00mm×厚さ14・05mmという、1993年の発売当時としては非常に大型であり、後に「ビースト」(野獣)

というニックネームがつくほどだった。

そして価格はステンレス・スチール製のヨロイヤルオークの2倍という、非常に高価であったことも物議を醸した。

この大胆な時計は1989年にドイツの販売代理店が1990年代に向けてオフショアモーターボートレースに因んだ、冒険を好む若い層をターゲットとする新しいトレンド的なモデルの開発を提

案したことに端を発した。22歳のエマニ

ユエル・ギユエがデザインを担当。そして大型のステンレス・スチール・ケースに厚いパッキン、カラー・ラバーに包まれたリユズ、丸みを帯びたプレスレットのリンクを備えたデザインが完成した。後にクロノグラフ機能を加えて、最初のモデルのRef. 25721がデビューした。

今年、オーデマピゲはヨロイヤルオーク オフショア 30周年を記念して、ブラックセラミックケースのクロノグラフを500個の限定で発売した。これは1999年にアーノルド・シュワルツェネッガーとの初めてのコラボレーションで登場した「エンド・オブ・デイズ」限定モデルへのオマージュであり、この時計の登場によってヨロイヤルオーク オフショアとアーノルド・シュワルツェネッガーのイメージが重なりあい、コレクションが一般に浸透するきっかけとなった。またこの時計はオーデマピゲでは初めてステンレス・スチールにPVD加工を施したケースを採用し、ケブラー製スト

ラップを組み合わせた点も注目された。

30周年記念限定モデルは、直径43・0mmのケースにアプライドのアワーマーカを備えたメガタペストリー文字盤を組み合わせ、プッシュピースのデザインなどを変更して2020年に発表したモデルをベースとする。またブラックにイエローをアクセントとした1999年のモデルのカラーリングを踏襲。ミドル・ケースと八角形のベゼル、リユズ、プッシュピースにはブラックセラミックを使い、傷つきにくく、重さは103gに抑えられた。ブラックの文字盤にはイエローのスーパーミノヴァを施したホワイトゴールド製のアワーマーカーとロイヤルオーク針を備え、フリンジにはイエローでタキメーターが記される。ムーブメントは自社製の一体型自動巻きクロノグラフのCal. 4401を搭載し、インダイヤルがオリジナルとは異なり、3時、6時、9時に配置される。ストラップは2021年にオーデマピゲでは初めて導入したインターチェンジャブル仕様となっている。



1999年にアーノルド・シュワルツェネッガーとのパートナーシップによって、映画『エンド・オブ・デイズ』の公開を記念して500個限定で製作された「ロイヤル オーク オフショア エンド・オブ・デイズ」。自動巻きクロノグラフのCal.AP2226/2840を直径42.00mm×厚さ14.05mmのブラックPVD加工のSSケースに搭載する。ケブラー製ストラップ。

「ロンジン パイロット マジエティック」、ロンジン スピリット フライバック」

豊かな歴史を次世代に継ぐために甦ったアーカイブ・ピース

今日のロンジンは自社のミュージアムに保管されるアーカイブ・ピースにスポットを当て、現代的に解釈を加えた製品開発を行っている。新たにミリタリー・パイロット・ウォッチとフライバック・クロノグラフにオマージュを捧げるモデルが登場した。

今日のロンジンはその歴史を振り返り、

エポックメイキングな時計を再び市場へと送り出している。もちろん単に過去の復刻ではなく、現代的な要素を採り入れたものであるというまでもない。

1832年にスイスの小さな村、サンティミエでオーギュスト・アガシによって創業されたロンジンは190年以上にわたってスイス時計産業の中核にあり、

発展を遂げてきた。少し19世紀後期のロンジンを振り返ってみよう。1852年にはアガシの甥の時計師アーネスト・フランシロンが経営を引き継ぎ、それまでの家内制手工業からひとつ屋根の下で製造する工場体制を導入した。1866年にはフランシロン自身が時計製造に必要なあらゆる機械の開発に着手し、翌年にサンティミエを流れるスーズ川の右岸の「ロンジン」(細長い野原)と呼ばれる地に工場を設立した。鍵巻き式のムーブメントの製造を行っていたが、工場に改革をもたらしたのがフランシロンの甥のジャック・デヴィッドだった。彼は1869

年に工場のテクニカル・ディレクターに

就任し新しい製造機械の設計を担い、1876年にフィラデルフィアで開催されたアメリカ独立100周年を記念した万国博覧会にスイス代表とともに訪れる機会を得た。そこでウォルサム の製造方式を目の当たりにし、また複数の時計メーカーの工場を見学し、大きな衝撃を受けたという。彼は帰国後に「アメリカの時計製造方法はスイスの時計産業を廃業に追い込むだろう」という詳細なレポートを提出し、警鐘を鳴らしたのだ。これをきっかけに互換性がある規格化した部品を機械で製造し、均一の品質をもつ時計を組み立てるといったアメリカ方式がスイス時計産業にも広まっていった。そして

スイス時計に近代化をもたらした貢献がロンジンの地位を揺るぎないものとした。ロンジンの工場は拡張を続けながら創業の地に留まり、今日も約6000人がここで働く。彼らにとつての財産は「歴史」であり、社屋のなかにはその歴史の証人である時計や計時機器、台帳、写真

1930年代。回転ベゼルと夜光塗料を塗布したムービング・アワーマーカーを装備したパイロット用時計。操作性を考慮して大型のリュウズを備える。



1920年代。回転ベゼルの装備した最初の「アビエーションカウンター」。



1937年製コクピット・クロック。時・分のダブル表示、夜光塗料塗布のアワーマーカー付き回転ベゼルの備える。



1935年に製作されたチェコスロバキア軍用パイロット・ウォッチのRef.3582。直径40mmの大型。

ティソ シュマン・デ・トゥレル

「普通であること」の良さを再認識させる正統派ウォッチ

近年、日本市場で積極的な展開を行っているティソにオーソドックスなデザインのコレクションが登場した。奇をてらわず、幅広い層に訴えかけるタイムレスなモデルだが、細部にわたった仕上げが生み出す高いクオリティに注目したい。



ボンベ・ダイヤルの形状に合わせて針の先端やインデックスもカーブし、文字盤の形状に合わせて型のサファイア・クリスタルの風防を備える。こうしてヴィンテージ風な趣をもつ。



すべてシースルー・バック仕様。ブレスレットとストラップはインターチェンジブルのクイックリリース・システムを採用する。

ティソは10年程前は日本市場ではメジ

ヤー・プレイヤーではなく、認知度も決して高いとは言えなかったが、近年では多くの話題を提供し、急速に知名度を高めている。そのきっかけが2019年に東京・代官山にオープンしたコンセプト・ストアであり、またその翌年にデビューした1960年代に作られた時計を現代風に解釈したオーセンティックなデザインの「ジエントルマン」だった。また1950年代のモデルに着想を得た300m防水の「シースター1000」の日本限定モデルをはじめ、1978年に発売されたモデルを2021年に復刻した「PRX」、1999年に誕生したタッチセンサー式クォーツ・ウォッチの進化形として2022年に発売したソーラー電池を搭載し、スマートフォン・リンクを実現した「データコネクトソーラー」など、次々と話題作を打ち出してきた。どのモデルもスイス・メイドのクオリティをもちながら、10万円台前後という良心的な価格設定も注目される。これはスウォッチグループ

の技術や製体制抜きには語れない。

今年には「シュマン・デ・トゥレル」が刷新された。フランス語で「塔の道」を意味し、1907年にル・ロククルに建てられたティソの工場近くの道の名に由来する。2015年に登場したコレクションだが、そのデザインとムーブメントに改良を加えて洗練度を増して、新たに全15モデルが登場した。

ラウンドのケースは全体に丸みを帯び、また薄く、すっきりとしたフォルムとなり、ポリッシュ仕上げが施され、ドーム型のサファイア・クリスタルの風防を備える。文字盤もドーム型で、それに合わせて針とインデックスもカーブし、針にはサンドブラストとポリッシュ仕上げ、インデックスにはファセット・カットが施される。ポリッシュ仕上げのブレスレットもなだらかな曲線を描き、やさしさを感じさせる。こうした細部の仕上げによって立体感がある、クラシカルなデザインの時計が完成した。

ケースは直径34mm、39mm、42mmの3サ

イズ展開で、ステンレス・スチール、ローズゴールド・カラーのPVDのステンレス・スチール、そしてバイ・カラーを揃える。文字盤もブラック、ホワイト、ブルー、シルバー、アイボリーラッカー、そしてマザー・オブ・パールなど多くのバリエーションがあり、バー・インデックスのシンブルなタイプと、クル・ド・パリのリング・モチーフとローマ数字を組み合わせたデザインがある。

ムーブメントは全モデルに耐磁性に優れたニヴァクロン製ヒゲゼンマイを装備し、最長80時間のパワーリザーブをもつパワーマティック80を搭載し、実用性にも優れる。ニヴァクロン製ヒゲゼンマイはスウォッチグループとオーデマ・ピゲが共同開発したもので、2018年に発表され、主に同グループのミドル・レンジのブランドが採用している。

入念な仕上げが積み重ねられた、幅広い層に向けたオーソドックスな「普通」な時計であり、これがこのコレクションの良さにちがいない。

ルイ・ヴィトン ハイウォッチ・メイキング

自由な発想を具現化する技術力の飛躍的な進化

ルイ・ヴィトンが本格的な時計製造に乗り出して20年程にすぎない。しかし飛躍的な発展を遂げ、特に複雑時計の分野では、独自の開発が注目される。ここでは今年初めに発表された、日本限定を含むコンプリケーション・ウォッチをみてみたい。

タンブル オペラ オートマタ

ルイ・ヴィトンから再び独創性あふれるオートマタが登場した。2021年には17世紀のオランダで誕生した「人生の虚しさの寓意」を表現した静物画のヴァニタスをテーマとした「タンブルカルペ・デイエム」、2022年にはルイ・ヴィトン生誕200周年を記念して、宇宙旅行の夢を表わした「タンブルジャック」

クマールミニッツ・リピーター」を発表。今年は四川オペラがテーマに選ばれた。ルイ・ヴィトンが時計の世界に進出しておよそ20年にすぎないが、タンブルを軸にベーシックなモデルからコンプリケーションに至るまで幅広く展開し、なかでもその発展の中でハイウォッチ、すなわち高級時計のカテゴリーで発揮さ

れる発想や技術力には目を見張らされる。

これは2014年にジュネーブ郊外に設立された「ラ・ファブリク・デュ・タン

ルイ・ヴィトン」に結集された複雑時計と文字盤製造のノウハウの賜物である。

ルイ・ヴィトンは2011年に複雑時計工房の「ラ・ファブリク・デュ・タン」、翌年に文字盤工房の「レマン・カドラン」を傘下に納め、このふたつの工房がひとつとなり、今日の発展の原動力となっている。そしてその発展は歴史が短いからこそ伝統や慣習にとらわれることなく、自由な発想が許されるからこそでもある。

新作の「タンブル オペラ オートマタ」は300年以上にわたって中国四川州に受け継がれる地方劇の「川劇」がテーマとなっている。華やかな衣装やダイナミックな表現で演じられる川劇だが、役者が動きながら被っている面を一瞬にして取り換える「変面」が最も大きな特徴である。20種類もの面を次々と瞬時に

替える超絶技巧ともいえる変面は門外不出の秘伝とされ、これを受け継ぐ変面師はわずかに残るのみといわれる。

「タンブル オペラ オートマタ」は「タンブルカルペ・デイエム」と同じくオートマタ、ジャンピング・アワー、レトログレード式分表示、パワーリザーブ表示を装備する手巻きのCal. LV525を搭載する。サファイア・クリスタル・バックを通して見えるムーブメントの地板には変面を模ったプレートが置かれる。装飾もオートマタの全2作と同様にエナメル師のアニタ・ポールシェ氏と彫金師の彫金師のディック・ステインマン氏の手がけた。クロワゾネ・エナメルで面シャンルベ・エナメルの技法で扇が製作され、彫金細工によって文字盤上のドラゴンや瓢箪、ケース・サイドに設けられたドラゴンの頭を模したオートマタのプッシュボタンが作られた。こうして精巧なミニチュア・シアターが誕生した。



直径46.8mm×厚さ14.4mmの18Kピンクゴールド・ケースに手巻きのCal.LV525(50石、毎時2万1600振動、パワーリザーブ約100時間)を搭載する。サファイア・クリスタル・バック。3気圧防水。18Kピンクゴールド製ダブル・フォールディング・バックル付きブラック・アリゲーター・ストラップ。参考価格7117万円(完売)。



ジュネーブ市内全体がイベント会場となった「ウォッチズ&ワンダーズ ジュネーブ」。市内各所にWATCHES & WONDERSのサインが飾られた。初日のオープニング・セレモニーではジュネーブ・バレエ団もステージに上がった。

2023年ブランド別新作情報／ウォッチズ&ワンダーズ ジュネーブ、日本ブランド、その他

自社の歴史を振り返り、現代的なアレンジを加えた新作にみる近い将来を見据えた堅実な進化

3月27日から4月2日までジュネーブのパレクスポで開催されたウォッチズ&ワンダーズは運営組織も新体制となり、昨年よりも10社多い48ブランドが参加した。主催者側の発表によると、来場者は4万3000人で過去最高を記録したという。週末の4月1日と同2日は一般入場者に開放され、1万枚用意された入場券は開幕前に完売し、一般の関心の高さも示した。入場券購入者の平均年齢は35歳で、25%は25歳以下であり、若い世代の時計への関心の高さを窺わせた。ジュネーブ市内では「イン・ザ・シティ」と題した試みも行われ、さまざまなイベントが開催され、街をあげての「時計の祭典」となった。こうしたなかでお披露目された新作は「堅実路線」といえるだろう。奇をてらうことなく、過去のアイコン的なモデルに焦点を当て、現代的にアレンジした新作が多く登場した。パテックフィリップはクラシカルな「カラトラバ」を、モダンでカジュアル・エレガントなデザインへと大きく変身させた。最近、多彩となった文字盤カラーはサーモンカラーやフィッシュなど、さまざまなトーンのピンクが時計に明るさを添えた。またロレックスの「オイスターパーペチュアル」の大小のカラフルなドットを描いた文字盤や、日付窓にカーミットが顔を出すオリスの「アップパイロットX」といった、楽しい時計も目を惹いた。

ズウォッチアートジャーニー2023

「アートを気軽に楽しもう」を提唱するズウォッチの最新作



「SWATCH × LOUBRE ABU DHABI」。葛飾北斎の「富嶽三十六景」の一図の「神奈川沖浪裏」(1831年作)を表側に描き、裏側にはムハンマド・イブン・アフマド・アル=バトゥーリが製作した「アストロラーベ」(天体観測機器)(1726~1727)をデザインする。直径41.0mm。価格1万4520円。

今年3月から5月にかけてズウォッチアートジャーニーがスタートし、5つのカプセル・コレクションが発売された。プラスチック・ケースに簡単に電池交換ができるクォーツ・ムーブメントを搭載して1983年に登場したズウォッチは1980年代から1990年代に世界的なブームを巻き起こした。手に入れやすい価格のスイス製であり、それまでにないカラーリングの多くのバリエーションが存在し、その楽しさが多くの人々を惹きつけた。さらにブームの起爆剤となったのがアート・スペシャル・ウォッチの登場だった。まず1985年にキキ・ピカソ、翌年にキース・ヘリングというように、著名なアーティストたちが次々とズウォッチをキャンバスに作品を生み出した。

アートとの共演は今日では世界各国の美術館とのコラボレーションによる「ミュージアム・ジャーニー」シリーズとして展開されている。2018年にはアムステルダム美術館とスペイン・マドリードのティッセン美術館とスペイン・マドリードのティッセン美術館とスエーデン・ストックホルムのルーヴル美術館(パリ)、2021年にはニューヨーク近代美術館、2022年にはボン

ピドゥー・センター(パリ)とのパートナーシップによるズウォッチが誕生した。そして今年はずウォッチアートジャーニーと題してルーヴル・アブダビ(サディヤット島)、ニューヨーク近代美術館、マグリット財団(ブリュッセル)、ウフィツィ美術館(フィレンツェ)の協力を得て世界各国のミュージアムを巡る7モデルが登場した。上の写真はルーヴル・アブダビとの初のコラボレーションで、文字盤側には葛飾北斎の代表作、裏蓋側には18世紀に北アフリカで製作されたアストロラーベが再現された。ルーヴル・アブダビは2017年11月にアラブ首長国連邦とフランス政府との共同プロジェクトとして誕生したミュージアムで、「文明や地域、時代を超越した人間の創造性の物語を通じて様々な文化にまたがった理解を構築することに焦点が当てられている」。こうして異なる時代、異なる文化から生まれたふたつの作品の融合が実現した。

このほか6点が発売された。どのひとつもそれぞれの作品を精密に表現した完成度が高いウェアラブル・アートである。

(T・K)

シヨパール アルパインイーグル 日本限定エディション SHIKKOKU[®] 禅の美学にオマージュを捧げた日本限定モデルが誕生



「アルパイン イーグル 日本限定 エディション “SHIKKOKU”」。直径41.0mm×厚さ9.7mmのルーセントスチール製ケースに自動巻きのCal.Chopard 01.15-C(31石、毎時2万8800振動、パワーリザーブ約60時間。COSC認定クロノメーター)を搭載。ティンテッド・ガラスのケース・バック。100m防水。ルーセントスチール製ブレスレット。価格215万6000円。日本限定100個。

シヨパール共同社長のカール・フリードリッヒ・シヨイフレ氏と稲垣啓太選手。“杜のスタジアム”と呼ばれる国立競技場は都会のなかで自然と調和する場所でもある。2019年のアルパイン イーグル コレクションの発表と同時に設立されたアルパイン イーグル ファウンデーションは現在、オジロワシをレマン湖畔に戻す活動に注力している。こうした自然環境への敬意、そして稲垣選手に因んだ場所として国立競技場が発表の場となった。稲垣選手は「アルパイン イーグルのもつ威厳や力強さ、エレガンスに呼応する人物」として選ばれた。



2023年4月18日、シヨパールは国立競技場で「アルパインイーグル」の日本限定モデルと日本人アンバサダーを発表した。このために来日したシヨパール共同社長のカール・フリードリッヒ・シヨイフレ氏自らがプレゼンテーターを務め、「アルパインイーグル」誕生の背景やその特徴、「アルパインイーグル」ファウンデーションなどについて説明を行った。

「アルパインイーグル」は1970年代に同氏が考案したシヨパール初のステンレス・スチール・ケースのスポーツ・ウォッチ、「サンモリッツ」に着目した長男のカール・フリッツ・シヨイフレ氏がそれを現代風に取りデザインすることを提案したのだった。試行錯誤を重ね、多くのプロトタイプを製作した後、2019年秋に「アルパインイーグル」は誕生した。

シヨイフレ氏は「アルパインイーグルの人氣が最も高い国は日本なのです」と語り、その感謝の気持ちの表現として日本限定エディションの製作を決定したという。限定モデルは日本の漆の黒に着想を得て「SHIKKOKU」(漆黒)と名づけられ、クールグレーのスーパーミ

ノヴァを塗布したブラックの針とインデックスを備えたブラック文字盤が特徴。文字盤には鷲の虹彩を思わせるサンバーストモチーフが型打ちされ、レギュラー・モデルと異なり4時と5時の間の日付窓が省かれた。ムーブメントは自動巻きのCal. Chopard 01.01-Cから日付表示を省いたCal. Chopard 01.15-Cが新たに設計された。

ケースとブレスレットにはシヨパール独自のルーセントスチールを採用する。これはリサイクル・スチールを80%含有したステンレス・スチールだが、抗アレルギー性、耐摩耗性に優れ、高い輝度をもつ。また製造段階での二酸化炭素の排出を通常のスチールよりも大幅に削減できるという利点がある(詳細はP103参照)。

さてアンバサダーとして選ばれたのは、ラグビーの稲垣啓太選手。「最も好きな色は黒」と語り、「常に分単位のスケジュールで動いているので時計は欠かせない。そして自分の大切な時間を時計でしっかりと確認していきたい」と述べた。力強さと真摯さがイーグルを思わせるアンバサダーが誕生した。(T・K)

ワールド・ムック1298
WORLD WRIST WATCH

KESAHARU IMAI
Publisher

TOMOKO KAYAMA
Editor in Chief

KAZUO TSUBOI
Advertising Director

SHUNSUKE OGAWA
Production Director

HIROSHI SASAGAWA
Circulation Manager

DTP
BASE

Cover Photo/
Takenori Aoki (WPP)

●本誌に掲載されている価格は
令和5年5月31日現在の調べによるものです。
本文中の価格は消費税(10%)込みの総額表示です。
© WORLD PHOTO PRESS 2023

【次号予告】

30周年を迎えたオーデマピゲ ロイヤルオーク オフシヨア®を 巡る物語を探る

1993年に誕生し、アーノルド・シュワルツェネッガーが
映画『エンド・オブ・デイズ』で着用して人気を集めた
「ロイヤル オーク オフシヨア®」。
その誕生の背景と、マリン・スポーツや音楽との多くの
コラボレーションによって発展した経緯を探ります。

2023年の新作の詳細を紹介

「ウォッチズ&ワンダーズジュネーブ」をはじめとする新作発表会で
お披露目された新作のなかから興味深いモデルの詳細をご紹介します。
また6月以降に登場した新作を取り上げます。

「世界の腕時計」第157号は2023年9月8日発売予定です。

世界の腕時計 定期購読のご案内

毎号、送料無料でお届けします！

お近くに書店のない方、毎号確実に入手したい方
便利な定期購読を是非ご利用ください。
特別定価アップ分、および送料はサービスいたします。

【年間購読料】

1年間(年4冊) **7,200円(税込)**
(3月、6月、9月、12月・8日発売予定)



【お申し込み方法】

フリーダイヤル 富士山 富士山

- お電話で(年中無休24時間受付) **0120-223-223**
- インターネットから <http://fujisan.co.jp/sekainoudedokei>
- QRコードから 上記QRコードからアクセスして下さい。

【お問い合わせ】

富士山マガジンサービスカスタマーセンター
パソコンサイト: <http://fujisan.co.jp/cs>
メールの場合: cs@fujisan.co.jp
に、お問い合わせください。

■注意事項

- 定期購読の契約は、富士山マガジンサービスとの契約となります。
- お支払いのタイミングによっては、ご希望の開始号が後ろにずれる場合がございます。
- 地域によっては、発売日より商品到着が若干遅れる場合がありますので予めご了承下さい。
- 定期購読は原則として途中解約はできませんので予めご了承下さい。

編集の都合上、内容が一部変更となる場合もありますので、ご了承ください。

ワールドフォトプレス総合サイト <https://www.monomagazine.com>

WORLD M O O K

ワールド・ムック1298

世界の腕時計

No.156

令和5年7月15日発行

発行人……………今井今朝春
編集人……………香山知子
発行所……………株式会社ワールドフォトプレス
〒166-0004東京都杉並区阿佐谷南1-12-1
アズ阿佐ヶ谷
編集部……………☎03-6383-2319 FAX.03-6383-2583
メディアビジネス部
……………☎03-5929-7682 FAX.03-6304-9443
販売部……………☎03-6383-2390 FAX.03-6383-2574
印刷所……………大日本印刷株式会社

- 造本には十分注意しておりますが、万一、落丁・乱丁などの不良品がありましたら
小社・販売部宛てにお送りください。送料小社負担にてお取替えいたします。
- 本誌掲載記事の無断転載・複製・転写を禁じます。